

7

その他の無脊椎動物

ヤマトヌマエビ

Caridina japonica De Man, 1892

十脚目ヌマエビ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

両側回遊型の生活史を有しているため、幼生は海域まで流下しなくては育たない。海域で稚エビに変態して、主生息域である清澄な渓流域へ遡上する。しかしながら、県下の河川に設置されたダムや砂防堤によって、遡上が阻まれ、上流では個体群が絶滅している。現状の認識のまま、県内河川に横断工作物が作られ続けるなら、県内の個体群は確実に衰退する。また、水系へのブラックバスやブルーギルなどエビを好んで捕食する外来魚が侵入したことによる食害や鑑賞魚販売業者による乱獲などによる影響を受けていることが考えられる。

分布の概要

本州の中部以南、四国、九州、南西諸島に分布する。

県内の生息状況

蒲生田岬以南の河川の上流域に分布する。以北の河川ではダムがあるため、本来の生息場である上流部への遡上が不可能となっている。ダムや砂防堤の設置により、川と海との往来が妨げられている。鑑賞魚販売業者による乱獲も各地で行われている可能性がある。

参考文献

浜野龍夫・鎌田正幸・田辺 力．2000．徳島県における淡水産十脚甲殻類の分布と保全．徳島県立博物館研究報告，11,1-47．

ヒメヌマエビ

Caridina serratirostris De Man, 1892

十脚目ヌマエビ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

主生息域は河川感潮域の直上の淡水域であり、そのような水域の水辺の植物のまわりに限産する。しかし、このような本来の主生息域が河川改修によってコンクリート護岸がなされ、水辺の植物がなく、また、隠れる転石なども少ない所が多く、本種の生活に適した場所が少ない。両側回遊型の生活史を有しているため、幼生は海域で育ち、稚エビに変態して川に遡上するが、その遡上能力は弱い。このため、河川下流に設置された汐止めの堰に遡上を阻まれている可能性もある。

分布の概要

本州の中部以南、四国、九州、南西諸島に分布する。

県内の生息状況

蒲生田岬以南に注ぎ込むすべての河川でに分布するが、個体数は少ない。感潮域のすぐ上流の流れの緩慢な所、植物の周りや転石下に限産している。感潮域上限付近と言う、河川改修が頻繁に行われる水域に主分布域があるため、いずれの河川においても生息環境が破壊されている。また、近年の鑑賞魚ブームで販売業者による乱獲も各地で行われている可能性があり、生息条件が急速に悪化している。

参考文献

浜野龍夫・鎌田正幸・田辺 力．2000．徳島県における淡水産十脚甲殻類の分布と保全．徳島県立博物館研究報告，11,1-47．

ヒラテテナガエビ

Macrobrachium japonicum (De Haan, 1849)

十脚目テナガエビ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

両側回遊型の生活史を有しているため、幼生は海域まで流下しなくては育たない。海域で稚エビに変態して、本来の生息域である清澄な渓流域へ遡上する。しかしながら、県下の河川に設置されたダムや砂防堤によって、遡上が阻まれ、上流では個体群が絶滅している。現状の認識のまま、県内河川に横断工作物が作られ続けるなら、県内の個体群は確実に衰退する。また、水系へのブラックバスやブルーギルなどエビを好んで捕食する外来魚が侵入したことによる食害や鑑賞魚販売業者による乱獲などによる影響を受けていることが考えられる。

分布の概要

本州の中部以南、四国、九州、南西諸島に分布する。

県内の生息状況

園瀬川、椿川を除く河川で採集された。本来は上流域に多い種類であるが、吉野川水系や勝浦川や那賀川水系では下流から中流域に分布する。県南の河川では中流から上流部に生息する。ダムや砂防堤が設置されることによって川と海との往来が妨げられ、上流の主生息域に到達することができず、個体群は急速に衰退する。吉野川、勝浦川、那賀川などでは、上流の個体群は絶滅したと考えられる。

参考文献

浜野龍夫・鎌田正幸・田辺 力．2000．徳島県における淡水産十脚甲殻類の分布と保全．徳島県立博物館研究報告，11,1-47．

ナルトアナジャコ

Upogebia narutensis K. Sakai, 1986

十脚目アナジャコ科

徳島県カテゴリ 絶滅危 I 類 環 庁カテゴリ 該当なし

選 定 理 由

鳴門市鳴門町土佐泊はこの種の基産地である。しかし土佐泊の磯は水質の変化が見られ、人為的な環境変化が進んでいる。

基 産 地

鳴門

分布の概要

徳島県（鳴門市鳴門町土佐泊龍宮の磯；鳴門市鳴門町土佐泊）. --- 紀伊半島江川，高知（桂浜西），福山；台湾。

ヘイケガニ

Heikea japonica (von Siebold, 1824)

十脚目ヘイケガニ科

徳島県カテゴリ 絶滅危 I 類 環 庁カテゴリ 該当なし

選 定 理 由

屋島（高松）では、乾燥した標本を源平の合戦で破れた平家因んでお土産として使われていた。しかし近年ヘイケガニが著しく減少し、採集が困難になった。

基 産 地

下関。

分布の概要

徳島県（板野郡松茂町沖, 20m）. --- 函館湾，大井川，伊勢湾，紀伊半島，尾鷲，田辺湾，和歌の浦，大阪湾，神戸，屋島，土佐湾，岡山，尾道，甞島，大隅，鹿児島，島原半島，長崎，有明海，天草，山陰地方（下関），石川県，韓国（韓国海峡）；黄海，中国（シャントン半島，香港）；台湾；ベトナム（トンキン湾）。

マメコブシガニ

Philyra pisum de Haan, 1841

十脚目コブシガニ科

徳島県カテゴリ 絶滅危 I 類 環 庁カテゴリ 該当なし

選 定 理 由

東北から九州までの内湾に発達した砂質の潮間帯に見られる種である。本種は、吉野川河口汽水域で、秋には雌雄がつかいになっているのが多く見受けられたが、近年その姿が見当たらない。生息適地となる潮間帯は人為的な影響を受けやすく、さらに本種の減少を加速する可能性がある

基 産 地

日本。

分布の概要

徳島県（吉野川河口汽水域，徳島市応神町古川）. --- 岩手県，東京湾，館山湾，三崎，相模湾，伊豆下田，伊勢湾，紀伊長島，南紀白浜，紀伊南部，尾道，奄美諸島，長崎，天草，有明海，島原半島，福岡，津屋崎；韓国；中国（シャントン半島）；シンガポール；フィリピン；ピュージェット・サウンド（北米西海岸）；砂質，泥質，高潮線と低潮線の間。

ノギリガザミ

Scylla serrata (Forskål, 1775)

十脚目ワタリガニ科

徳島県カテゴリ 絶滅危 I 類 環 庁カテゴリ 該当なし

選 定 理 由

ドテボリの方言で知られる。吉野川河口汽水域の泥地に穴を掘って棲息しているが、葦や、潜行性の動物の棲息出来た環境がコンクリート、ブロックのような人工的なものに代わりつつある。

基 産 地

紅海。

分布の概要

徳島県（吉野川河口汽水域）. --- 北海道，木古内，逗子，伊豆下田，紀伊長島，紀伊南部，土佐湾，高知，奄美大島，沖縄，久米島，西表島，石垣島，天草，沖縄；韓国；中国（香港，ハイナン島）；ベトナム；シンガポール；フィリピン；インドネシア（スラウェシ島，ジャカルタ，ジャワ島，チモール島）；アラフラ海；ソロモン諸島；オーストラリア（モレトン湾，クイーンズランド）；ニューカレドニア；フィジー；サモア諸島；ハワイ諸島；タヒチ島；ニュージーランド；紅海；イエメン；アデン湾-ジブチ；モザンビーク；南アフリカ，ダーバン；マダガスカル島；モーリシャス；インド（ボンベイ）；ミャンマー；メルギー諸島。

シオマネキ

Uca arcuata (de Haan, 1833)

十脚目スナガニ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

絶滅危

選定理由

吉野川河口汽水域は汽水域の塩水化がすすみ砂質の箇所が増えているので、個体数/棲息場所に変化が見られる。上流からの淡水、泥の流入が減少して、本来の棲息環境が変化してきている。

基産地

日本。

分布の概要

徳島県：吉野川河口汽水域（徳島市応神町古川，徳島市城東町）。--- 和歌の浦，多々良川（福岡市），長崎，有明湾，島原半島；韓国；黄海；台湾（タイペイ）；中国（シャントン半島，フーチョウ，香港）。

ノコハオサガニ

Macrophthalmus latreillei (Desmarest, 1822)

十脚目スナガニ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

吉野川河口汽水域は汽水域の塩水化がすすみ砂質の箇所が増えているので、近年見かけない。

基産地

インドネシア。

分布の概要

徳島県（阿南市椿泊町，50m）。--- 東京湾，紀伊長島，神戸，土佐湾，高知，能登半島；中国；香港；フィリピン；タイランド湾；マレーシア；シンガポール；インドネシア（スラウェシ島（ウジュンパンダン=マカッサル），スンバ島）；ニューギニア；オーストラリア（クイーンズランド）；ニューカレドニア；インド，ボンベイ，南アフリカ；マダガスカル島；10-20m。

トリウミアカイソガニ

Acmaeopleura toriumii Takeda, 1974

十脚目イワガニ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

II類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

吉野川河口汽水域は汽水域の塩水化がすすみ砂質の箇所が増えているので、自然の環境が変化している。

基産地

日本（女川湾）。

分布の概要

徳島県（吉野川河口汽水域）。--- 女川湾，瀬戸内海；香港。

モクスガニ

Eriocheir japonicus (de Haan, 1835)

十脚目イワガニ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

II類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

肺吸虫の第二中間宿主として知られ、食用にしていた。上流にダムや砂防堤が設置されることによって川と海の間での往来が妨げられ、稚ガニは上流の主生息域に到達することが出来なくなっている。吉野川，那賀川では，上流の個体群はほぼ絶滅したと考えられる。

基産地

日本。

分布の概要

徳島県（吉野川，那賀川，勝浦川，阿南市椿泊町沖，50m）。--- 北海道（オシヨロ，函館湾），陸奥湾，東京湾八丈島，小笠原諸島，三浦半島，相模湾，伊豆下田，浜松，伊勢湾，御坊，四国，沖縄，黒島，南西諸島（八重山），長崎，天草。

ケフサイソガニ

Hemigrapsus penicillatus (de Haan, 1835)

十脚目イワガニ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

吉野川河口汽水域でもっとも普通に見られた種である。汽水域の塩水化がすすみ、上流からの淡水、泥の流入が減少して、人工的な環境が変化したものと考えられる。

基 産 地

日本。

分布の概要

徳島県：吉野川河口汽水域（徳島市応神町古川，城東町，川内町鶴島）；鳴門市鳴門町横山；海部郡海南町浅川浦上川，河口。--- 北海道，厚岸，室蘭，函館湾，陸奥湾，岩手県，館山湾，東京湾，相模湾，三崎，伊豆下田，伊勢湾，紀伊半島，南紀白浜，土佐湾，宮崎県，奄美大島，沖縄，天草，長崎；東シナ海；韓国（チェジュ島）；黄海；台湾；中国（シャントン半島）；ハワイ諸島；高潮線-低潮線。

ユビアカベンケイ

Parasesarma acis Davie, 1993

十脚目イワガニ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

吉野川河口汽水域の葦原が変化している。

基 産 地

紀伊白浜。

分布の概要

徳島県（吉野川河口汽水域，徳島市応神町古川）。--- 相模湾，南紀白浜，高知，博多湾，与論島。

オオユビアカベンケイ

Parasesarma plicatum (Latreille, 1803)

十脚目イワガニ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

吉野川河口汽水域の葦原が変化している。

基 産 地

東インド。

分布の概要

徳島県（吉野川河口）。--- 東京湾，相模湾，熊本，長崎。韓国；中国；台湾；マレー半島；シンガポール；インドネシア；ニューカレドニア；インド；スリランカ；アンダマン諸島；ニコバル諸島；東アフリカ；マダガスカル島。

フタバカクガニ

Chiromantes bidens (de Haan, 1835)

十脚目イワガニ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

吉野川河口汽水域の葦原が変化している。

基 産 地

日本。

分布の概要

徳島県（吉野川河口汽水域，徳島市応神町古川）。--- 横浜，相模湾，伊豆下田，紀伊南部，南紀白浜，高知，長崎，天草；韓国（チェジュ島）；台湾；中国；香港；インドネシア；フィジー；ベンガル湾；アンダマン諸島；ニコバル諸島；メルギー諸島；スリランカ；サンジバル。

ベンケイガニ

Sesarmops intermedium (de Haan, 1835)

十脚目イワガニ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

II類

環 庁カテゴリ

該当なし

選定理由

吉野川河口汽水域の葦原が変化している。

基産地

日本。

分布の概要

徳島県（吉野川河口汽水域、徳島市応神町古川、海部郡海部町小島） .--- 東京湾、相模湾、伊豆下田、八丈島、奄美大島、南西諸島（八重山）、熊本、長崎、博多湾；韓国；台湾；香港；インドネシア；メルギー諸島。

ハマガニ

Chasmagnathus convexus (de Haan, 1833)

十脚目イワガニ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

II類

環 庁カテゴリ

該当なし

選定理由

吉野川河口汽水域の葦原が変化している。

基産地

日本。

分布の概要

徳島県（吉野川河口汽水域、徳島市応神町古川；勝浦川河口汽水域） .--- 相模湾、伊豆下田、三河湾、伊勢湾、紀伊長島、紀伊南部、尾道、土佐湾、高知、沖縄、長崎、天草、熊本、島根、鳥取、福井；韓国（チェジュ島）；中国（ハイナン島）；台湾；汽水域。

ヒメアシハラガニ

Helicana japonica K. Sakai & Yatsuzuka, 1980

十脚目イワガニ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

II類

環 庁カテゴリ

該当なし

選定理由

吉野川河口汽水域の葦原が変化している。

基産地

博多湾。

分布の概要

徳島県（吉野川河口汽水域、徳島市応神町古川） .---- 三浦半島、島原、天草、長崎、熊本、福岡；韓国；中国（シャントン半島）。

ニホンスナモグリ

Callianassa japonica Ortmann, 1891

十脚目スナモグリ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選定理由

吉野川河口汽水域は汽水域の塩水化がすすみ、上流からの淡水、泥の流入が減少して、本来の棲息環境が変化してきている。

基産地

東京湾。

分布の概要

徳島県：吉野川河口汽水域（徳島市城東町） .--- 根室、相模湾、備後、岡山、広島、薩摩南岸、有明湾、天草、博多湾、秋田県；シャントン半島から朝鮮半島南西沿岸

ヨコヤアナジャコ

Upogebia yokoyai Makarov, 1938

十脚目アナジャコ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選定理由

吉野川河口汽水域は汽水域の塩水化がすすみ、上流からの淡水、泥の流入が減少して、本来の棲息環境が変化してきている。

基産地

陸奥湾, 青森県.

分布の概要

徳島県: 吉野川河口汽水域 (徳島市城東町; 応神町古川); 勝浦川. --- 青森県, 広島, 島原, 奄美大島, 西表島, 山田湾 (岩手県), 井の尻 (高知県).

ハクセンシオマネキ

Uca lactea (de Haan, 1835)

十脚目スナガニ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

絶滅危

選定理由

吉野川河口汽水域は汽水域の塩水化がすすみ砂質の箇所が増えているが、人為的な環境変化に問題を持つ。

基産地

日本.

分布の概要

徳島県: 吉野川河口汽水域 (徳島市応神町古川, 徳島市城東町). --- 三重県 (伊勢湾), 田辺, 土佐湾, 高知, 岡山, 尾道, 宮崎, 鹿児島, 奄美大島, 石垣島, 西表島, 長崎, 大村湾, 天草, 熊本, 福岡; 韓国; 台湾; 中国 (マカオ); ホルネオ; インドネシア (ロンボク島, スンバ島, フロレス島, スラウェシ島); ニューギニア; パラオ諸島; オーストラリア (クイーンズランド); ニューカレドニア; フィジー; サモア諸島; インド; カラチ; アンダマン諸島; ダーバン; 南アフリカ.

アカテガニ

Chiromantes haematocheir (de Haan, 1833)

十脚目イワガニ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選定理由

放卵場所の汽水域に至る経路に土手が築かれ、生殖回遊が阻まれている。

基産地

日本.

分布の概要

徳島県 (吉野川河口汽水域, 海部郡海部町小島, 県南海岸). --- 仙台, 館山湾, 東京, 相模湾 (江の島), 伊豆下田, 御坊, 和歌山, 多奈川, 愛媛, 高知, 奄美大島, 長崎, 博多湾, 天草, 鹿児島, 沖縄, 奄美大島, 舞鶴; 東シナ海; 韓国 (チェジュ島); 黄海; 台湾 (タイペイ); 中国 (シャントン半島, 香港); シンガポール.

クチキレムシオイ

Chamalycaeus biexcisus (Pilsbry)

原始紐舌目ムシオイガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危 I 類

環 庁カテゴリ

絶滅危 I 類

選 定 理 由

生息地が局所的であるうえ、樹木伐採によって生息個体数が急激に減少し、絶滅のおそれが非常に強い。

分布の概要

阿南市を模式産地とする徳島県の固有種であり、広葉樹林内の落葉下に生息する。

県内の生息状況

阿南市・上那賀町に記録があり、近年、勝浦町でも見つかっている。しかし、上那賀町の産地はダム建設のため水没し、勝浦町の産地は 1999 年 11 月の調査では再確認できなかった。現在確実に生息を確認できる産地は、模式産地の阿南市の産地だけであるが、樹木伐採により生息個体数が激減した。樹木伐採により林床が乾燥し、絶滅のおそれが非常に強い。

参 考 文 献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

ナガナタネ

Columella edentula (Draparnaud)

柄眼目キバサナギガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危 I 類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

四国では本県のこの地点が、現在確認されている唯一の生息場所であり、樹木伐採による絶滅のおそれが強い

分布の概要

北海道・本州（垂高山帯）・四国（徳島県）に分布し、林床の草むらに生息する。

県内の生息状況

従来記録されていなかったため、今回の報告が徳島県初記録である。1982 年 9 月 22 日、徳島県名西郡神山町鬼籠野の杉林の林床でこの貝の死殻が見つかった。1985 年 11 月 23 日再採集を試みたが、とれた数個体はすべて死殻であった。結局現在までに生貝は見つかっていないが死殻の中にはかなり新鮮な個体も含まれており、生息の可能性は十分にある。しかし、生息が考えられるのはこの 1 地点のみなので、新たな産地が見つからない限り、絶滅が心配される。この種は、寒冷期に分布を広げた北方種の遺存種と考えられている。現在確認されている唯一の生息地は杉林であり、杉林はいずれ伐採されるので、将来絶滅のおそれが非常に強い。

参 考 文 献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

ホソキセルガイモドキ

Mirus rugulosus (Moellendorff)

柄眼目キセルガイモドキ科

徳島県カテゴリ

絶滅危 I 類

環 庁カテゴリ

絶滅危

選 定 理 由

分布範囲が狭く、生息場所が次々と失われつつあり、大木の伐採による絶滅のおそれが強い。

分布の概要

九州の各県には広く分布するが、四国では愛媛・高知・徳島の各県に飛び地的に分布する。ケヤキ等の落葉広葉樹の大木の樹幹に生息する。

県内の生息状況

木頭村で数ヶ所の生息が記録されている。このうちの 1 ヶ所で採集を試みたところ、溪流沿いの大木の樹幹に生息していたが、生息個体数は非常に減少している。大木の伐採により、生息場所が失われ、将来絶滅のおそれが強い。

参 考 文 献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

ピントノミギセル

Hemizaptyx pinto (Pilsbry)

柄眼目キセルガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

県庁カテゴリ

該当なし

選定理由

県内における生息地点が限定され、樹木の伐採による絶滅が心配される。

分布の概要

鹿児島県（薩南諸島・トカラ列島）に分布し、大分・徳島の両県に飛び地分布する。照葉樹の大木の樹幹に生息する。

県内の生息状況

鳴門市の2ヶ所における生息が記録されているが、今回の調査でその生息が確認された。なぜ県内のこの地点に飛び地分布しているのか、理由はわからないが、分布地点が数ヶ所にわたっているということから考えて、この貝がこの地に入ってきたのはかなり古い時代であると考えられる。アラカシ等の大木の樹幹の窪みに生息し、雨上がり等の湿気の多い日にはそこから這い出している。生息地点は神社の裏山なので、大木が一斉に伐採されるということはないと思われるが、林床の乾燥等によって、絶滅のおそれは十分にある。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
湊 宏. 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. 自費出版.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

クロチビギセル

Tyrannophaedusa (Aulacophaedusa) aulacophora (Pilsbry)

柄眼目キセルガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

県庁カテゴリ

絶滅危

選定理由

確認されている県内の生息地は1ヶ所のみであり、樹木の伐採による絶滅のおそれが高い。

分布の概要

兵庫県淡路島・同県友ヶ島・徳島県鳴門市に分布し、照葉樹林の落葉下に生息する。

県内の生息状況

従来記録されていなかったが、今回までの調査において、鳴門市の島嶼部における生息が確認された（多田昭氏採集）。生息場所は、照葉樹林の落葉下である。照葉樹林の伐採等により、絶滅のおそれがある。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
湊 宏. 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. 自費出版.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

シンチュウギセル

Mundiphaedusa (Vitriphaedusa) aenea (Pilsbry)

柄眼目キセルガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

県庁カテゴリ

絶滅危 II類

選定理由

確実な生息地は2ヶ所のみであり、樹洞中という特殊な場所に生息するため、大木の伐採による絶滅のおそれが非常に強い。

分布の概要

徳島・高知・愛媛の各県に分布する四国の固有種であり、大木の樹洞中に生息する。

県内の生息状況

神山町・木沢村・東祖谷山村・西祖谷山村・山城町に記録があるが、徳島県立博物館に寄贈された阿部氏のコレクション中の4ヶ所の標本でこの種を再検討した結果、剣山見の越（木屋平村・東祖谷山村）の標本はシンチュウギセルであると確認できたが、西祖谷山村の1ヶ所・東祖谷山村の1ヶ所・木沢村の個体はシンチュウギセルではなくトサギセルであった。徳島県立博物館にコレクションが残されていないその他の産地の標本については未確認であるが、トサギセルである可能性もあり、今後の検討が必要である。しかし一方で、今回の調査において、木屋平村の1地点で生息を確認しており、分布地域は、さらに広い可能性もある。開発等により大木が伐採され、生息場所が失われると、将来絶滅のおそれが高い。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
湊 宏. 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. 自費出版.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

ナミコギセル

Euphaedusa tau (Boettger)

柄眼目キセルガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

確認されている生息地は1ヶ所のみであり、樹木の伐採による絶滅のおそれがある。

分布の概要

近畿地方・中国地方東部の各県に分布し、徳島・愛媛の両県に飛び地分布する。アラカシ等の照葉樹の大木の樹幹に生息する。

県内の生息状況

鳴門市の1ヶ所における生息が記録されている。今回の調査では、雨上がりという好条件のため、アラカシ等の大木の樹幹の窪みから這いだして、活動している様子が観察された。神社の裏山の大木なので、大木が一斉に伐採されるということはないと思われるが、林床の乾燥等により、絶滅のおそれは十分にある。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
湊 宏. 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. 自費出版.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

アズママルクチコギセル

Pictophaedusa masaoi (Habe)

柄眼目キセルガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

絶滅危

I類

選定理由

県内では3ヶ所でしか確認されておらず、樹木の伐採による絶滅のおそれが強い。

分布の概要

高知・愛媛・徳島の各県に分布する四国の固有種であり、広葉樹の大木の樹幹に生息する。

県内の生息状況

木頭村・上那賀町での生息が記録されている。今回までの調査では木頭村における生息が確認できたが、個体数はわずかであり、今後大木の伐採による絶滅のおそれが大きい。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
湊 宏. 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. 自費出版.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

カスガコギセル

Pictophaedusa hungerfordiana (Moellendorff)

柄眼目キセルガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

絶滅危

I類

選定理由

ケヤキ等の大木の減少に伴って生息場所が次々と失われつつあるとともに、美しい貝なのでコレクターに好んで採集され、近い将来絶滅のおそれが非常に強い。

分布の概要

奈良・京都・大阪・岡山・徳島・大分の各県に分布し、大木の樹幹に生息する。

県内の生息状況

阿南市・神山町・山川町・市場町・一宇村・木屋平村・東祖谷山村での生息が記録されている。ところが、今回までの調査で生息が確認できたのは、一宇村だけである。それもわずか1個体のみの確認であり、絶滅が心配される。大木の伐採により、生息場所が失われたり、コレクターの採集により、絶滅のおそれが非常に強い。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
湊 宏. 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. 自費出版.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

ヒロクチコギセル

Reinia variegata (A. Adams)

柄眼目キセルガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環 庁カテゴリ

絶滅危

II類

選定理由

県内では、1ヶ所ですら確認されておらず、樹木の伐採による絶滅のおそれが高い。

分布の概要

本州（関東以西の太平洋側）・四国・九州の各県に分布し、海岸付近の大木の樹幹に生息する。

県内の生息状況

日和佐町での生息が記録されている。今回までの調査では、この記録のある日和佐町内のクスの大木の樹幹においてこの貝の生息を確認した。現在のところ、生息を確認しているのは上記の1地点だけであるが、今後の調査において第2・第3の生息地点が見つかる可能性はあるものの、上記の産地は大切にしたい。大木の伐採により、生息場所が失われ、絶滅のおそれが高い。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
湊 宏. 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. 自費出版.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

パツラマイマイ

Discus pauper (Gould)

柄眼目パツラマイマイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環 庁カテゴリ

該当なし

選定理由

徳島・高知の両県ともに、わずか1ヶ所ずつしか生息が確認されておらず、樹木の伐採による絶滅が心配される。

分布の概要

北海道・本州・四国（愛媛・徳島）の各県に分布し、落葉広葉樹林の落葉下に生息する。

県内の生息状況

木頭村甚吉森で唯一記録されている。ところが、採集した場所は甚吉森登山道の中腹というだけで、明確な場所が特定できないため、昭和31年7月29日の初採集以後、全く採集されていないし、今回の調査においても、生息を確認することはできなかった。この種は、寒冷期に分布を広げた北方種の遺存種と考えられている。落葉樹林の伐採により、生息場所が失われ、すでに絶滅した可能性もある。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

ヤマコウラナメクジ

Nipponarion carinatus Yamaguti & Habe

柄眼目オオコウラナメクジ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環 庁カテゴリ

絶滅危

選定理由

県内ではわずか1ヶ所のみ生息が確認されているが、その生息地もすでに失われており、絶滅が心配される。

分布の概要

白山や大山など本州の亜高山帯の湿地に分布する。この種は、寒冷期に分布を広げた北方種の遺存種と考えられている。

県内の生息状況

西祖谷山村水の口湿原で唯一記録されている。ところが、採集した湿原は、その後の開発で全く消失してしまい、確実な産地はなくなってしまった。今回までの調査においても、その生息を確認することはできなかった。ただ、阿部氏の目録において、木沢村名古屋瀬・神山町柴小屋での1個体ずつの未確認記録がある他、牟岐町辺川にてそれらしき個体を採集したことがあり、今後の調査において確認していきたい。湿地の開発等により、生息場所が失われ、絶滅するおそれがある。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

キイロナメクジ

Limax flavus Linne

柄眼目コウラナメクジ科

徳島県カテゴリ 絶滅危 Ⅰ類 県庁カテゴリ 該当なし

選定理由

近年、急速にその生息数が減少し、生息を確認することが困難な状態になっている。

分布の概要

原色日本陸産貝類図鑑においては、「この種は日本全土に分布し、著しく増加している。」と説明されているが、それはいまから約 30 年前の状況である。現在は、全国的に個体数が減少して、確実な生息地は、ほとんどなくなっているのではないかとと思われる。都市周辺の庭園や畑に生息する。

県内の生息状況

徳島市・小松島市での生息が記録されている。阿部氏の目録が出版されたのは 1981 年なので、当時はかなり生息していたと思われるが、今回の調査においては、生息を確認することはできなかった。都市周辺の開発や農薬の使用により、既に絶滅してしまった可能性が大きい。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

トサビロウドマイマイ

Nipponochloritis tosanus (Pilsbry & Hirase)

柄眼目ナンバンマイマイ科

徳島県カテゴリ 絶滅危 Ⅰ類 県庁カテゴリ 絶滅危

選定理由

県内における確実な生息地は 1 ヶ所のみであり、絶滅の危険性が高い。

分布の概要

高知・徳島・香川・兵庫・京都の各府県に分布し、倒れた大木の裏や大きな岩の下面などに生息する。

県内の生息状況

木頭村・上那賀町・穴喰町・徳島市・井川町での生息が記録されているが、木頭村の記録以外は別種である可能性が強いので、今後さらに検討を加えていきたい。木頭村以外では、生息を確認することはできなかった。原生林の伐採により、絶滅のおそれが高い。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

モリサキオオベソマイマイ

Aegista (Aegista) intonsa (Pilsbry & Hirase)

柄眼目オナジマイマイ科

徳島県カテゴリ 絶滅危 Ⅰ類 県庁カテゴリ 絶滅危 Ⅰ類

選定理由

現在生息が確認されているのは 2 ヶ所のみであり、石灰岩の採石により、絶滅する危険性が非常に高い。

分布の概要

阿南市を模式産地とする徳島県の固有種である。石灰岩の表面に付着して生息する。

県内の生息状況

阿南市における 2 ヶ所での生息が記録され、今回までの調査でその生息を確認したものの、石灰岩採石のため、生息範囲がかなり狭められており、将来の絶滅が心配される。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

カタメマイマイ

Lepidopisum verrucosum (Reinhardt)

柄眼目オナジマイマイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危Ⅰ類

環境カテゴリ

絶滅危Ⅱ類

選定理由

阿南市の石灰岩地帯において、かつて記録されたが、以後再確認されていないので、森林伐採等の環境の変化により、絶滅してしまった可能性がある。

分布の概要

埼玉・東京・神奈川・三重・大阪・兵庫・広島・徳島の各都府県において記録されているが、そのいずれの都府県においても産地が局限されている。

県内の生息状況

阿南市水井町における石灰岩地帯の低木下での生息が記録されているが、その後の調査において再確認されておらず、今回の調査でも生息を確認することができなかった。森林伐採等の環境の変化により、絶滅してしまったおそれがあるが、この貝は石灰岩に依存しているわけではないので、今後他の場所で見つかる可能性もある。森林伐採等により、生息環境が奪われ、絶滅するおそれ大きい。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

コウツムシオイ

Cipangocharax akioi Kuroda & Abe

原始紐舌目ムシオイガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危Ⅱ類

環境カテゴリ

絶滅危

選定理由

分布範囲が狭いため、森林伐採等の環境の変化に伴い、絶滅のおそれがある。

分布の概要

高越山（山川町）を模式産地とする、徳島・香川両県の固有種であり、広葉樹林の落葉下の隙間に生息する。

県内の生息状況

山川町・穴吹町・上勝町・脇町での生息が記録されているが、今回までの調査において、その生息を確認し、新たに美馬町における生息を記録した。しかし、各地点とも生息個体数は少数であるうえに、礫地という環境は土砂流出等の影響を受けやすく、生息環境は不安定である。広葉樹林の伐採や道路工事に伴う土砂流出等により、生息環境が奪われると、移動能力が低いため、絶滅するおそれ大きい。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

トウゲンムシオイ

Cipangocharax kiuchii Minato & Abe

原始紐舌目ムシオイガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危Ⅱ類

環境カテゴリ

絶滅危

選定理由

分布範囲が狭いため、石灰岩の採石等の環境の変化に伴う絶滅のおそれがある。

分布の概要

桃源洞（木沢村）を模式産地とする徳島県の固有種であり、石灰岩地帯の広葉樹林の落葉下に生息する。

県内の生息状況

木沢村における2地点での生息が記録されている。今回までの調査において、その生息が確認されたが、比較的多産するのは模式産地のみである。現在、桃源洞付近は急傾斜地であるため、植林されずに広葉樹林が残されているが、今後の環境の変化によって、絶滅する可能性も大きい。石灰岩の採石のほか、広葉樹林の伐採や道路工事に伴う土砂流出等により、生息環境が奪われると、移動能力が低いため、絶滅するおそれ大きい。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.
湊 宏・阿部近一. 1982. 徳島県産石灰岩地産クチキレムシオイ属の1新種. Venus40: 200 - 202.

アツブタムシオイ

Awalycaeus abei Kuroda

原始紐舌目ムシオイガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危 II 類

環 庁カテゴリ

絶滅危 II 類

選 定 理 由

分布範囲が狭いため、石灰岩採石等の環境の変化に伴う絶滅のおそれがある。

分布の概要

石立山（木頭村）を模式産地とする徳島・高知両県の固有種であり、石灰岩地帯の広葉樹林の落葉下に生息する。

県内の生息状況

木頭村の 5 地点で記録されている。今回の調査ではそのうちの 1 地点しか確認していないが、その地点においてはかなりの個体数が確認された。しかし、石灰岩に依存する種であるため、石灰岩の採石が始まると、生息地は急激に破壊されるおそれがある。幸い石立山は剣山国定公園に含まれるため、大きな自然の改変はなされないと思うが、今後の開発や森林伐採によって、絶滅するおそれがある。石灰岩の採石等により、生息環境が奪われると、移動能力が低いいため、絶滅するおそれ大きい。

参 考 文 献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

マルクチゴマガイ

Diplommatina (Sinica) circumstomata Kuroda & Abe

原始紐舌目ゴマガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危 II 類

環 庁カテゴリ

絶滅危

選 定 理 由

本種は、東祖谷山村切谷を模式産地とする、四国の特産種であり、分布範囲が亜高山帯から高山帯に限られるため、環境の変化に伴う絶滅のおそれがある。

分布の概要

東祖谷山村切谷を模式産地とする四国の固有種であり、亜高山帯の広葉樹林の落葉下に生息する。

県内の生息状況

東祖谷山村の 3 地点で記録されているが、今回の調査では、東祖谷山村でさらに 1 地点確認し、一宇村でも 1 地点での生息を確認した。各地点における個体数は比較的多いが、森林の伐採等によって生息環境が失われると、絶滅のおそれ大きい。

参 考 文 献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

ホラアナゴマオカチグサ

Paludinella (Cavernacmella) kuzuensis Suzuki

原始紐舌目カワザンショウガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危 II 類

環 庁カテゴリ

絶滅危

選 定 理 由

鍾乳洞の観光地化等に伴う、環境の変化によって、絶滅のおそれがある。

分布の概要

本州・四国・九州から南西諸島まで分布範囲は広い。鍾乳洞内の湿った壁面に付着して生息する。

県内の生息状況

木沢村高野の桃源洞と上那賀町の日店洞で記録されている。今回の調査では未確認であるが、どちらも人手の加わっていない洞窟なので、生息環境は保全されており、現在も生息していると思われる。しかし、観光開発等によって洞内の壁面が乾燥するなど生息環境が失われると、絶滅のおそれ大きい。

参 考 文 献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

クリイロコミミガイ

Laemodonta siamensis (Morelet)

原始有肺目オカミミガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環 庁カテゴリ

該当なし

選定理由

河川改修によるアシ原の消滅によって、絶滅のおそれがある。

分布の概要

本州（中部以西）・四国・九州から南西諸島まで分布範囲は広い。河口付近の干潟のアシ原において、泥地の木材などの漂着物の下などに生息する。

県内の生息状況

徳島市論田町籠での生息が記録されている。しかし、その後の研究で、この産地の個体は、クリイロコミミガイではなく、ウスコミミガイであると訂正されている。そのため、今回の報告が徳島県初記録となる。2000年6月、勝浦川河口部の調査時に、その右岸の干潟における生息を確認した。現在確認している生息地はこの干潟だけである。河川改修などによる干潟の消滅によって、生息環境が奪われると、絶滅するおそれ大きい。

参考文献

波部忠重. 1961. 続原色日本貝類図鑑. 保育社.
河辺訓受. 1992. 邦産オカミミガイ類について. かきつばた, 18: 6 - 12.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

ナギサノシタタリガイ

Microtralia acteocinoides Kuroda & Habe

原始有肺目オカミミガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環 庁カテゴリ

該当なし

選定理由

河川改修や干潟の埋め立てなどによって、絶滅のおそれがある。

分布の概要

北海道（函館）・本州・四国・九州の海岸に分布し、河口や内湾の礫地の石の下などに生息する。

県内の生息状況

徳島市論田町籠での生息が記録されている。今回の調査において、その生息の確認はできていないが、黒田徳米氏が昭和12年8月に記録した同じ場所で、阿部氏は昭和54年4月に再採集して生息を確認しているため、現在も生息していると思われる。また、このような生息環境は、他の場所にも存在しているため、第2・第3の産地が今後見つかる可能性は大きいと思われる。しかし、現在までに確認されている生息地はこの場所だけなので、大切に保護していきたい。河川改修や干潟の埋め立てなどによって、生息環境が奪われると、絶滅するおそれ大きい。

参考文献

河辺訓受. 1992. 邦産オカミミガイ類について. かきつばた, 18: 6 - 12.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

ナタネキバサナギガイ

Vertigo eogea Pilsbry

柄眼目キバサナギガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環 庁カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

選定理由

休耕田における耕作の再開や池の改修によって、絶滅のおそれ大きい。

分布の概要

北海道・本州・四国に分布し、ガマなどの生えた平野部の休耕田や池周辺の湿地などに生息する。

県内の生息状況

神山町鬼籠野での古い記録が紹介されているが、その再確認はできていない。その後、木内和美氏の調査によって、牟岐町での生息が2ヶ所確認され、今回までの調査においてその生息を再確認している。生息環境は、その2ヶ所とも休耕田の湿地であり、今後耕作が開始されると、絶滅するおそれ大きい。その他の生息地が今後見つかる可能性もあるが、現在確認されている生息地はこの場所だけである。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

エゾナタネ

Punctum boreale Pilsbry & Hirase

柄眼目ナタネガイ科

徳島県カテゴリ 絶滅危 II 類 環 庁カテゴリ 該当なし

選定理由

休耕田における耕作の再開や池の改修によって、絶滅のおそれ大きい。

分布の概要

北海道・本州・四国に分布し、ガマなどの生えた平野部の休耕田や池周辺の湿地などに生息する。

県内の生息状況

従来記録されていなかったが、今回までの調査により、海部郡牟岐町においてその生息を確認した。生息環境は、休耕田の湿地であり、今後耕作が開始されると、絶滅するおそれ大きい。その他の生息地が今後見つかる可能性もあるが、現在確認されている生息地はこの場所だけである。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

ハダカケマイマイ

Aegista (Plectotropis) aemula hadaka (Pilsbry & Hirase)

柄眼目オナジマイマイ科

徳島県カテゴリ 絶滅危 II 類 環 庁カテゴリ 絶滅危

選定理由

県内での生息確認地は 1 ヶ所だけであり、落葉広葉樹林の伐採等によって、絶滅のおそれ大きい。

分布の概要

中国地方中西部・九州北部に分布するチクヤケマイマイの亜種であり、高知県不入山周辺と徳島県高越山周辺・香川県東部に飛び地分布している。落葉広葉樹林の落葉下に生息する。

県内の生息状況

山川町高越山でのみ記録され、山頂付近の落葉広葉樹林の落葉下に生息している。その他の生息地としては、板野郡土成町北端部が候補地としてあげられる。ただし、この貝が生息しているのは、香川県側（急斜面のため植林されず、ケヤキ林となっている）であり、徳島県側は南向き斜面のため乾燥しているうえ、植林されてスギ林となっているので、生息の可能性は薄い。森林の伐採によって、生息環境が奪われると、絶滅するおそれ大きい。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

タシママイマイ

Aegista (Coelorus) caviconus (Pilsbry)

柄眼目オナジマイマイ科

徳島県カテゴリ 絶滅危 II 類 環 庁カテゴリ 絶滅危 II 類

選定理由

その分布は局所的であり、照葉樹林の落葉下に生息しているが、いずれの産地においても、多産せず、照葉樹林の伐採等によって、絶滅のおそれ大きい。

分布の概要

高知県中部から徳島県南部にかけて分布する固有種であり、照葉樹林の落葉下に生息する。

県内の生息状況

穴喰町・海南町・牟岐町・上那賀町・木頭村で記録され、徳島県南部に広く分布しているが、その分布は連続せず、局所的である。今回までの調査では、海部郡牟岐町においてその生息を確認したのみであり、各地の生息個体数は、かなり減少しているのではないと思われる。照葉樹林の伐採などによって、生息環境が奪われると、絶滅するおそれ大きい。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

ケショウマイマイ

Trishoplita optima (Pilsbry)

柄眼目オナジマイマイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危 II 類

環境カテゴリ

絶滅危 II 類

選定理由

生息個体数が少なく、石灰岩の採石や落葉広葉樹林の伐採等によって、絶滅のおそれ大きい。

分布の概要

阿南市を模式産地とする徳島県の固有種である。石灰岩に依存するため、その分布は飛び地的であり、石灰岩地帯の落葉広葉樹の樹幹や、石灰岩の側面に付着して生息する。

県内の生息状況

阿南市・佐那河内村・上勝町・鷲敷町・相生町・上那賀町・木沢村・木頭村などで記録されており、徳島県中部に広く分布しているが、その分布は連続せず、飛び地的である。今回までの調査では、上記の各地でその生息を確認したが、その生息個体数は、かなり減少しているのではないと思われる。石灰岩の採掘やそこにおける落葉広葉樹林の伐採などによって、生息環境が奪われると、絶滅する危険性が大きい。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

ムシヤドリカワザンショウガイ

Assiminea parasitologica (Kuroda)

原始紐舌目カワザンショウガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

生息環境が限られるため、河川改修や埋め立て等によって、絶滅のおそれ大きい。

分布の概要

本州中部から九州までの、河口付近のアシ原に生息する。

県内の生息状況

従来記録されていなかったが、今回の調査において、園瀬川河口と勝浦川河口での生息を確認した。その生息地においてはかなりの密度で多産するが、生息場所がアシ原に限定されるため、生息範囲はそれほど広くない。河川改修や河口付近の埋め立て等により、絶滅のおそれがある。

参考文献

波部忠重. 1990. 日本非海産水棲貝類目録 (その1). ひたちおび, 54: 3-6.
波部忠重. 1990. 日本非海産水棲貝類目録 (その2). ひたちおび, 55: 3-9.
波部忠重. 1990. 日本非海産水棲貝類目録 (その3). ひたちおび, 56: 3-7.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

シノミミミガイ

Cassidula plecotrematoides Moellendorff

原始有肺目オカミミガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

生息環境が限られるため、護岸工事や埋め立て等によって、絶滅のおそれ大きい。

分布の概要

本州中部から沖縄までの、河口付近や内湾の、岩礁の割れ目や防波堤等の石組みの中などに生息する。

県内の生息状況

徳島市論田町籠にて記録されているが、今回の調査において、確認できなかった。今のところ徳島県内の記録は上記1地点のみである。海岸部の詳しい調査は、まだこれからなので、今後の調査において新たな産地が見つかる可能性は残されているが、護岸工事や海岸部の埋め立て等によって、絶滅のおそれ大きい。

参考文献

河辺訓受. 1992. 邦産オカミミガイ類について. かきつばた, 18: 6-12.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

ナタネガイモドキ

Pyramidula (Pyramidulops) conica Pilsbry & Hirase

柄眼目ナタネガイモドキ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

絶滅危

選定理由

石灰岩採掘のため、絶滅のおそれ大きい。

分布の概要

本州（関東以西）・四国の、石灰岩地帯に分布し、石灰岩の表面に付着して生息している。

県内の生息状況

阿南市・鷺敷町・相生町・木沢村・木頭村・東祖谷山村の石灰岩地帯で記録されているが、各地における生息個体数は少ない。生息個体数が少なく、石灰岩採石による絶滅のおそれ大きい。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

アベギセル

Pinguiphaedusa ignobilis (Sykes)

柄眼目キセルガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

絶滅危 II類

選定理由

生息範囲が狭いうえに、いずれの産地においても、その生息個体数が少なく、森林伐採等による、絶滅のおそれ大きい。

分布の概要

剣山を模式産地とする徳島県の固有種であり、落葉広葉樹林の落葉下に生息している。

県内の生息状況

美郷村・山川町・穴吹町・一宇村・木屋平村・神山町・木沢村・上勝町・勝浦町の各町村で記録されているが、その生息範囲が狭いうえに、各地における生息個体数は少ない。落葉広葉樹林伐採等による絶滅のおそれ大きい。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

デールギセル

Tyrannophaedusa (Decolliphaedusa) dalli (Pilsbry)

柄眼目キセルガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

絶滅危 II類

選定理由

生息地点は散在しており、石灰岩の採石や森林伐採等による生息環境の破壊によって、絶滅するおそれがある。

分布の概要

大龍寺山（阿南市）を模式産地とする徳島県の固有種であり、那賀川流域の石灰岩地に分布し、落葉広葉樹林の落葉下に生息している。

県内の生息状況

阿南市・勝浦町・上勝町・木沢村・上那賀町の各町村で記録されており、各生息地での生息個体数は比較的多いが、生息範囲が狭いうえに、生息地点はまばらである。生息地点が少ないため、落葉広葉樹林伐採等による絶滅のおそれ大きい。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

モリサキギセル

Tyrannophaedusa (Aulacophaedusa) morisakii (Kuroda & Abe)

柄眼目キセルガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

絶滅危

選定理由

生息範囲が狭いので、森林伐採等による生息環境の破壊によって、絶滅するおそれがある。

分布の概要

城王山（市場町）を模式産地とする徳島・香川両県の固有種であり、落葉広葉樹林の落葉下に生息する。

県内の生息状況

吉野川をはさんで、右岸の山川町・穴吹町と左岸の脇町・阿波町・市場町・土成町の各町村で記録されており、各生息地での生息個体数は比較的多いが、生息範囲が狭いうえ、生息地点はまばらである。生息範囲が狭いので、広葉樹林伐採等による絶滅のおそれ大きい。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

オオコウラナメクジ

Nipponolimax monticola Yamaguti & Habe

柄眼目オオコウラナメクジ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

絶滅危

選定理由

本種は、亜高山帯の落葉広葉樹林の落葉下に生息するが、本県では非常に生息個体数が少なく、林床の乾燥によって、絶滅するおそれがある。

分布の概要

本州・四国・九州に分布し、亜高山帯の落葉広葉樹林内のよく湿った落葉下に生息する。

県内の生息状況

従来記録されていなかったが、その後、阿部氏が1981年9月、麻植郡山川町高越山にて採集したのが初記録である。今回までの調査では、三好郡東祖谷山村名頃三嶺登山口（1983年9月）と東祖谷山村落合峠での生息を記録した。落葉広葉樹の落葉下に生息するが、生息個体数が非常に少なく、絶滅のおそれがある。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.
矢野重文. 1984. 久しぶりの陸貝採取—徳島編—. いそこじき, 56: 21 - 22.

イボイボナメクジ

Granulilimax fuscicornis Minato

柄眼目ナメクジ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

絶滅危

選定理由

本県では非常に生息個体数が少なく、林床の乾燥によって、絶滅するおそれがある。

分布の概要

本州・四国・九州に分布し、落葉広葉樹林内の落葉下や礫間に生息する。

県内の生息状況

従来記録されていなかったが、その後、阿倍氏が1981年9月、麻植郡山川町高越山にて採集したのが初記録であり、さらに由岐町・上板町で記録している。今回までの調査では、阿南市水井・勝浦町鶴林寺・木沢村高野での生息を記録した。落葉広葉樹の落葉下や礫間に生息するが、生息個体数が非常に少なく、絶滅のおそれがある。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.
湊 宏. 1987. 珍奇なナメクジ類2種 イボイボナメクジの記載. Venus, 48: 255 - 258.
湊 宏・増田修・矢野重文. 1996. イボイボナメクジの新分布記録. ちりぼたん, 26: 100 - 101.

サドタカキビ

Trochochlamys xenica (Pilsbry & Hirase)

柄眼目ベッコウマイマイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

イヌビワ等の、広葉樹の葉裏に生息するが、同じ葉裏に生息するマルシタラに比べて、非常に生息個体数が少なく、絶滅するおそれがある。

分布の概要

全国に分布し、広葉樹の葉裏に生息する。

県内の生息状況

従来記録されておらず、今回の報告が初記録である。イヌビワ等の広葉樹の葉裏に生息する。この貝と同じように広葉樹の葉裏に生息するマルシタラに比べて、生息個体数が非常に少ない。生息個体数が少ないため、絶滅のおそれ大きい。

参 考 文 献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

カサネシタラ

Sitalina insignis (Pilsbry & Hirase)

柄眼目ベッコウマイマイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

絶滅危

選 定 理 由

非常に生息個体数が少なく、林床の乾燥によって、絶滅するおそれがある。

分布の概要

全国に分布し、落葉広葉樹林の落葉下に生息する。

県内の生息状況

従来記録されていなかったが、1983年4月、故品川和久氏が美馬郡脇町大滝山で採集されたのが初記録である。今回までの調査では、三好郡池田町雲辺寺山での生息を記録した。落葉広葉樹の落葉下に生息するが、生息個体数が非常に少なく、絶滅のおそれがある。

参 考 文 献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.
中井美樹. 1984. 品川和久先生と私達親子. かいなかま, 18: 12 - 18.

ミヤマオオベソマイマイ

Aegista (Aegista) proba goniosomoides Kuroda & Abe

柄眼目オナジマイマイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

絶滅危 II類

選 定 理 由

非常に生息個体数が少なく、森林の伐採などによる林床の乾燥によって、絶滅するおそれがある。

分布の概要

剣山(木屋平村)を模式産地とする徳島・高知両県の固有種であり、落葉広葉樹林内の落葉下に生息する。

県内の生息状況

阿南市・上勝町・神山町・木沢村・木頭村・木屋平村・一宇村・東祖谷山村・山城町での生息が記録されており、徳島県中部の石灰岩地帯を中心に、東西に細長く分布域が広がっている。落葉広葉樹の落葉下に生息するが、各地での生息個体数は非常に少ない。生息個体数が少ないため、絶滅のおそれがある。

参 考 文 献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

ギュリキマイマイ

Euhadra eoa gulicki Pilsbry

柄眼目オナジマイマイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選定理由

本県では分布範囲が限られ、非常に生息個体数が少ないので、森林の伐採などによって、絶滅するおそれがある。

分布の概要

近畿地方中・南部に広く分布し、落葉広葉樹林内の落葉下に生息する。

県内の生息状況

阿南市・由岐町・牟岐町・穴喰町での生息が記録されており、徳島県東南部の海岸地帯や島嶼部に分布している。照葉樹林の落葉下に生息するが、各地での生息個体数は非常に少ない。生息個体数が少ないため、絶滅のおそれがある。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

キュウシュウゴマガイ

Diplommatina (Sinica) tanegashimae kyushuensis Pilsbry & Hirase

柄眼目ゴマガイ科

徳島県カテゴリ

留意

環 庁カテゴリ

該当なし

選定理由

生息地における生息個体数は多いが、本県では分布範囲が限られている。

分布の概要

岐阜県以西の西日本に広く分布しているが、九州地方では比較的密に分布している。落葉広葉樹林内の落葉下に生息する。

県内の生息状況

徳島県北西部の馬路川（吉野川の支流）流域に分布している。照葉樹林の落葉下に生息し、産地は限られているが、生息地での生息個体数は比較的多い。各産地での生息個体数は比較的多いが、生息範囲が狭いため、環境破壊によって絶滅するおそれがある。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.

ニクイロギセル

Placeophaedusa carnea (Kuroda & Abe)

柄眼目キセルガイ科

徳島県カテゴリ

留意

環 庁カテゴリ

該当なし

選定理由

本県中部に広く分布するが、徳島県の固有種である。

分布の概要

本県中部に広く分布し、落葉広葉樹林内の朽ち木や倒木に付着して生息する。

県内の生息状況

木頭村・木沢村・上那賀町・神山町・上勝町・勝浦町・日和佐町・鷺敷町・阿南市での生息が記録されており、徳島県中部の山岳地帯から海岸地帯にまで広く分布している。照葉樹林の落葉下の朽ち木や倒木に生息するため、各地での生息環境が限られ、生息個体数も少く、絶滅のおそれがある。

参考文献

湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄. 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

ヘナタリ

Cerithidea (Cerithideopsis) cingulata (Gmelin,1790)

盤腹足目フトヘナタリ科

徳島県カテゴリ

絶滅危 II 類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

1999年に私信であるが東京湾では生息地が護岸工事の為に失われかろうじて生き延びた個体がコンクリートのよう壁に付着しているのみ(岡本正豊)との知らせがあった。Kawakami & Habe(1961)によると日本列島が中国大陸と陸続きであった時代に大陸から分布を広げ、日本の島嶼化による干潟の減少によって内湾の奥部にのみわずかに残存している大陸系貝類の遺存種の一つとされている。大陸系遺存種に限らず、内湾性の貝類にはかつては普通種であった種類でも、生息地が失われ現在では希少となっているものがすくなくない。本種はそれらのなかでも、もともと生息地の少ない種であり貴重である。

分布の概要

房総半島・山口北部以南、瀬戸内海、四国、九州。インド、韓国、中国、西太平洋。河川口及び内湾の干潟に生息する。

県内の生息状況

鳴門市の内ノ海と吉野川並びに勝浦川干潟に生息する。
田畑の拡張に伴う埋立、短い河川の三面張り工事、道路工事に関する生息地への拡張工事、田畑の拡張や塩害からの防止のための塩水防止ダムの設置等による種の減少の可能性がある。和歌山県では漁師による釣り餌に乱獲されていると聞く。

参 考 文 献

吉良哲明. 1954. 原色貝類図鑑. 保育社.
波部忠重・奥谷喬司監修. 1983. 学研生物図鑑. 学習研究社.
奥谷喬司編監修. 1986. 決定版 生物大図鑑 貝類. 世界文化社.
肥後俊一・後藤芳央. 1933. 日本及び周辺地域産軟体動物総目録. エル貝類出版局.
権吾吉・朴甲萬・李俊相. 1993. 原色韓国貝類図鑑. Academy Publishing Company.
佐藤国康. 1995. 岡山県児島湾にヘナタリガイを求めて. おかやまの自然を愛する会 岡山 Letter From Nature,1(2).
奥谷喬司編著. 2001. 日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版会.
Kawakami,i.and T.Habe (1961) The characteristic aspects of the molluscan fauna in the west coast of Kyushu, Japan.Records of Oceanographic Works in Japan.(5).195 – 197.

カワアイ

Cerithidea (Cerithideopsis) djadjariensis (Martin, 1899)

盤足目フトヘナタリ科

徳島県カテゴリ

絶滅危 II 類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

生息場所である潮間帯の泥地が、土地改良等により減少したことにより、個体数も急激に減少してきている。

分布の概要

房総半島・山口北部以南、奄美、沖縄。韓国、東南アジア。内湾の潮間帯、河川口の泥地に生息する。

県内の生息状況

吉野川干潟と勝浦川干潟に生息しているが、生息数は少ない。
県下の生息場所は段々と狭められているとともに種の個体数数が限られている。また、水質汚染に弱いことである。早急に保護対策が必要と考えられる。

参 考 文 献

波部忠重・奥谷喬司監修. 1983. 学研生物図鑑 貝 I (巻貝). 学習研究社.
奥谷喬司編監修. 1986. 生物大図鑑 貝. 世界文化社.
肥後俊一・後藤芳央. 1993. 日本及び周辺地域産軟体動物総目録. エル貝類出版局.
権佐吉・朴甲萬・李俊相. 1993. 原色韓国貝類図鑑. Academy Publishing Company.
奥谷喬司編著. 2001. 日本近海産貝類図鑑. 東海大出版会.

ウミニナ

Batillaria multiformis (Lischke, 1869)

盤足目ウミニナ科

徳島県カテゴリ

絶滅危 II 類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

Houbriek (1988 年) によればウミニナの仲間は主として亜熱帯に分布するとされ、その中でウミニナは温帯域に分散した種であり、その分布様式は東亜固有要素に属すると考えられる、このように系統的・分布的に貴重な種である点で、学術的な意義を本種は有していると考えられる。
千葉県の小櫃川河口の調査では 1983 年からの 10 年間に減少との報告がある。1995 年の調査ではウミニナの個体は見られなかったと岡本は記している。和歌山県の田辺湾では 1973 年には死殻のみだと今福・布村が報告し絶滅を仄めかしている。奄美大島でも西平は環境条件は整っているにもかかわらず発見できなかったと報じている (1989)。
一方、堀口は、それまでに知られていた新腹足目のみならず、ウミニナの属する中腹足目でも有機スズの影響によって貝類の不妊化の生じていることを報告している (1994)。
1988 年以降生存の確認されているところは山口湾、博多湾、九州西岸、がある程度で琉球列島、西表島の報告がある程度で、浜名湖や三河湾でも確認と言われている。
1989 年を境に東京湾では絶滅した可能性が高いが、日本各地ではまだ生息しているものと考えられる。しかし、田辺湾のような小地域で絶滅が報じられており、今後各地の個体群が減少する可能性が高い。本県では県南まで生息可能な条件の場所でも死殻のみで発見不可能な海岸が多い。

分布の概要

北海道南部・男鹿半島以南、日本各地。中国、韓国。内湾の干潟に生息する。

県内の生息状況

鳴門市ではわずかに生息しているが昭和 40 年代に塩田を埋め立てて以来スクノ海と県南の海部郡那佐湾を除いて発見できないのが現状で絶滅の危機にさらされている。
他の干潟の生物と同様に、生息場所自体の保全、水質等の汚染の軽減、好適粒土の保持が挙げられる。

参 考 文 献

日本水産資源保護協会 (軟体動物部会). 1995. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (II) 分冊 I. 軟体動物. 日本水産資源保護協会.
波部忠重・奥谷喬司監修. 1983. 学研生物図鑑 貝 I. (巻貝). 学習研究社.
奥谷喬司編著. 2001. 日本近海産軟体動物図鑑. 東海大学出版会.

イボウミニナ

Batillaria zonalis (Bruguiere, 1792)

盤足目ウミニナ科

徳島県カテゴリ

絶滅危 II 類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

ウミニナの仲間として亜熱帯に分布している、ただし、ホソウミニナのように群生しておらず生息数は限られ 1960 年前後の無数に生息した面影はない。国内全般のこの種の情報は少ないが県内の場合、どの調査場所でも死殻は認められるが生体はわずかとなっている。

分布の概要

北海道南部・山口県北部以南、奄美、沖縄。インド、西太平洋。内湾の潮間帯の泥地に生息する。

県内の生息状況

鳴門市以外は全滅状態である。鳴門市でも数日探してやっと 1 個体発見できる程度に減少している。フトウミニナやウミニナに属する他の種類と同じく水際の潮間帯に生息するが護岸工事・道路工事・塩害防止に伴う防止水門あるいは水質汚濁等化学物質により生息地域の減少が種の減少につながっていると考えられる。

参 考 文 献

波部忠重・奥谷喬司監修. 1983. 学研生物図鑑 貝 I (巻貝). 学習研究社.
奥谷喬司編著. 2001. 日本近海産貝類図鑑. 東海大出版会.
後藤俊一・肥後芳央編著. 日本及び周辺地域産軟体動物総目録. エル貝類出版局.

コゲツノブエ

Ceritium coralium Kiener, 1841

盤足目オニツツノガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危 II 類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

紀伊半島以南に生息するが徳島県では鳴門市の入江の奥深くにのみ生息が確認されているだけである。近年穴喰町金目海岸では死殻が確認されただけで絶滅したと考えられる。

分布の概要

過去に駿河湾、瀬戸内海に生息したが恐らく絶滅したと考えられる。北限は紀伊半島とされている。西太平洋、インド洋北東部。内湾汽水域、マングローブ林の水深 2m 程度までの砂泥上に生息する。

県内の生息状況

県内では鳴門市の内湾砂泥のホソアマモの生息する場所で生息する。この県内唯一の生息場所が埋め立てられると絶滅するおそれがある。

参 考 文 献

波部忠重・奥谷喬司監修. 1983. 学研生物図鑑 貝 I (巻貝). 学習研究社.
奥谷喬司編著. 2001. 日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版会.
肥後俊一・後藤芳央編著. 1993. 日本及び周辺地域産軟体動物総目録. エル貝類出版局.

イシマキガイ

Clithon retropicta (v. Martens, 1879)

アマオブネガイ目アマオブネガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危 II 類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

一部の河川ではなお多数の生息が認められるものの、生息可能と考えられる河川でも生息が認められなかったり、生息数が減少しているのが実情と考えられる。その要因としては水質汚染及び人工的な河川の改修が極めて重要な原因と考えられる。護岸工事のため長期に亘って濁流が生じると幼貝や成貝は死滅したり、小河川が三面張りのコンクリート川にしまったり汽水域の改変・消滅によって幼貝の着底が不可能になり、生息数が激減した例は極めて多い。

生活史を考えると、イシマキガイは貝類の進化の過程で海から淡水へと進化のプロセスと仕組みを解明する上で学術的に貴重な種と言える。

分布の概要

イシマキガイの生息する地域を地理的分布の観点かからみると、黒潮と対馬暖流という暖流の影響を受ける地域と一致する。本州の房総以南および新潟県（佐渡島を含む）以南、四国、九州（対馬、壱岐、五島、屋久島、種子島を含む）、奄美諸島、沖縄本島、宮古島、八重山諸島（西表島、石垣島、与那国島）、台湾、香港、小笠原諸島（父島、母島）に分布している。

県内の生息状況

鳴門市撫養川の淡水が流出する出口の小川や旧吉野川でかろうじて生き延びている現実がある。島田島の小川で生息を確認できるが、生活廃水が流入すれば生息が不可能となるであろう。徳島市では水質汚濁で生息できない場所が吉野川で認められる。また水田が埋立てられたり、水路改修、汽水域改変などで生息不可能になった場所も見受けられる。

参 考 文 献

奥谷喬司編著. 2001. 日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版局.

西脇三郎. 1996. 1. イシマキガイ 日本の希少な水生生物に関する基礎資料(II). 日本水産資源保護協会.

肥後俊一・後藤芳央. 1993. 日本及び周辺地域産軟体動物相目録. エル貝出版局.

ヒロクチカノコガイ

Neritina (Dostia) cornucopia (Benson, 1836)

アマオブネガイ目アマオブネガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環 庁カテゴリ

該当なし

選定理由

ヒロクチカノコガイの生息する内湾流入河川の干潟環境は、人工環境化へと著しく影響を受けてきた。干潟の自然度や多様性を評価する上で、本種は特徴種、あるいは指標種として重要な意味を持っている。すなわち、ヒロクチカノコガイの生息する干潟は、干潟植物群落、貝類や甲殻類などの無脊椎動物、魚類、鳥類の種類と生息数が多く、水の浄化作用が高いなど、護岸で干潟が消失した汽水域とは比較にならない多様性と高い自然度を有している。しかし、本県のこの種の分布域は鳴門市と吉野川、勝浦川の2河川になってしまった。

分布の概要

本種は、大陸系遺存種と考えることができ、日本列島が中国大陸と湖沼群等の形でつながっていた時代に分布し内湾環境の衰退と共に現在の分布状況にいたったと考えられる。三河湾、伊勢湾、瀬戸内海、九州北部、南西諸島の内湾流入河川群地域に生息する。

県内の生息状況

鳴門市、吉野川、勝浦川に生息する。

鳴門市里浦海岸における江戸時代の堤防跡の松原と現在の堤防までの間に東西4kmの水路があるが、その西端において港湾整備が行われ昭和30年代まで生息されたフトヘナタリ、カワアイ、イボウミナ等とともに消滅した。勝浦川の干潟も農薬あるいは工場地帯の廃液あるいは生活廃水の汚濁等に犯されたと推測される二枚貝類群が消滅しその残骸を残しているが、巻貝の仲間のみが生き延びた形で生存している。フトヘナタリ、ヘナタリ、カワアイ、ヒロクチカノコガイである。もう一つは、吉野川の干潟のアシ群落にみることができる。県南では、いたるところに生息可能な場所が散在するが、いずれからも生息の痕跡は認められない。

本種の生息環境である河口付近の干潟は、工業化、道路整備等により著しく減少してきた。現在の生息場所も、同様な立地条件下あるいはそれに隣接しており、このままでは近い将来のうちに絶滅してしまうであろう。

参考文献

阿部近一. 1981. 徳島県産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター.

奥谷喬司. 2001. 日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版会.

肥後俊一・肥後芳央. 1993. 日本及び周辺地域産軟体動物総目録. エル会出版局.

増田修. 1998. 2. ヒロクチカノコ. 日本尾希少な野生水生生物に関するデータブック(水産庁編). 日本水産資源保護協会.

フトヘナタリ

Cerithidea rhizophorarum A. Adams, 1855

盤足目フトヘナタリ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

多産地として知られている有明海は、東部沿岸（福岡県・熊本県）では干拓や護岸の完成によって生息地はすでに失われている。東京湾には記録があるが、絶滅寸前とされている（岡本正豊、1999）。東北地方以南各地の生息地は、いずれも内湾の河口のアシの自生する泥質の汽水域である。干拓や護岸の構築によってアシの生育する干潟の消滅が心配される。また、ゴミの投棄や水質の汚濁等によっても種の存続が困難となる。

分布の概要

東北地方・山口県北部以南、瀬戸内海、奄美、沖縄。台湾、西太平洋。汽水域の潮間帯、内湾の干潟に生息する。

県内の生息状況

河口や内湾の干潟の泥質でアシ原の茂っている汽水域で波静かな波打ち際が生息条件である。過去にこの種が生息したと思われる条件の場所は県南から県北まで該当の場所は既に人為的な改造が施され、1960年の調査では海部郡由岐町田井川では死殻のみで全滅であった。1958年には鳴門市の塩田や鳴門町高島の内ノ海沿岸に生息していたが護岸工事で都市計画により絶滅した。現在、勝浦川の干潟と吉野川のアシ原に生息するのみとなっている。

田畑の拡張に伴う埋立、短い河川の三面張り工事、道路工事に関する生息地への拡張工事、田畑の拡張や塩害からの防止のための塩水防止ダムの設置等による種の減少の可能性がある。また、生息場所の泥質のアシ原の環境が悪化しないで保全されることが必要である。

和歌山県では漁師による釣り餌に乱獲されていると聞く。

参考文献

- 波部忠重、1961. 続原色日本貝類図鑑. 保育社.
波部忠重・奥谷喬司監修、1983. 学研生物図鑑 貝 I (巻貝). 学習研究社.
奥谷喬司編監修、1986. 決定版 生物大図鑑 貝類. 世界文化社.
肥後俊一・後藤芳央、1993. 日本及び周辺地域産軟体動物総目録. エル貝類出版局.
岡本正豊、1999. フトヘナタリガイの3種. 東京貝類同好会 第80号 4~15.
奥谷喬司編著、2001. 日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版会.

ホラガイ

Charonia tritonis (Linnaeus, 1758)

盤足目フジツガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

日本近海では稀に和歌山県、高知県、愛媛県、宮崎県で採取されるが、主な分布域は鹿児島県トカラ列島から、与論島、そして沖縄県全域の亜熱帯であると久保（1995）は報告している。昨年徳島県でも本種が2個体牟岐町大島で採取された。珊瑚礁の高消費者としてその存在が話題となっていたがようやく証明されたわけである。ホラガイは少ない資源状態の中で漁獲や採取がされ続けられている。ところが採種に関して規制も無いままに取り続けられている現状である。こうした状態から判断して減少傾向にあると考える。

分布の概要

八丈島・紀伊半島以南、奄美、沖縄。インド、太平洋の珊瑚礁地帯。

県内の生息状況

沖縄ではホラガイを禁魚としている漁協でもせいぜい2~4個体で、全く見ない日もあるという。徳島県では珊瑚礁は牟岐町大島近辺や穴喰町水床湾が生息可能地であるが生息数も少なく減少傾向にある現状から希少といわざるをえない。

参考文献

- 久保弘文、1995. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料（II）分冊. 軟体動物 17. ホラガイ. 日本水産資源保護協会.
波部忠重・奥谷喬司監修、1983. 学研生物図鑑. 貝 I (巻貝). 学習研究社.
奥谷喬司編著、2001. 日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版会.
R.T. アボット・S.P. ダンス監修・訳、1985. 波部忠重・奥谷喬司、1985. 世界海産貝類大図鑑.
肥後俊一・後藤芳央、1993. 日本および周辺地域産軟体動物総目録. エル貝出版局.

アカニシ

Rapana venosa (Valenciennes, 1846)

新腹足目アツキガイ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

日本周辺の海域では、水質の汚染や埋立により内湾の生息環境の悪化が進行しており、本種のような大型肉食性の底生動物の場合、個体群の維持は豊富な動物相に依存しているので、良好な自然状態の保持が本種の存続にとって重要であると考えられる。

また、海洋汚染の重要な問題となっている船底塗料のブチルスズなどの有機スズ化合物による新腹足目貝類のインボセックスと呼ばれる不妊化の問題が指摘されている（堀口、1994）。

分布の概要

アカニシは日本から東南アジア・インド洋にかけての海域に固有の属であり、北海道西南部以南の日本海沿岸、太平洋側は仙台湾以南から鹿児島県南部、台湾、中国沿岸の潮間帯～30mの砂泥底に生息する。しかし、実際にはこの地域に普遍的に分布するのではなく、内湾域に局在して分布するために、個体群の分布は非連続的である。東京湾、伊勢湾、瀬戸内等大きな湾では、比較的まとまった個体群が保持されていると考えられるが、資源状態が把握できるような調査はなされていなが、資源量はあきらかに減少しているものと推測される。（長谷川、1995）

県内の生息状況

瀬戸内海、小鳴門海峡、内ノ海等の鳴門市近辺や吉野川河口、小松島市沖の紀伊水道、阿南市北の脇近辺に限られて生息している。また、小鳴門海峡、内ノ海等の漁場で捕獲されているが年々捕獲量は減少の傾向にある。

本種の属するアツキガイ科の個体数の減少については水質汚濁と使用禁止とされている船底塗料の影響が考えられる。

参 考 文 献

長谷川和範. 1996. 11. アカニシ 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料（II）. 日本水産資源保護協会.

波部忠重・奥谷喬司監修. 1983. 学研生物図鑑 貝Ⅰ（巻貝）. 学習研究社.

奥谷喬司編著. 2001. 日本近海貝類図鑑. 東海大出版会.

平瀬信太郎. 1928. アカニシの産卵について. *Amoeba*, 1(1): 1-5, pla7-8.

クモ形類 クモ目

クスミダニグモ

Gamasomorpha kusumii Komatsu, 1963

クモ目タマゴグモ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

本県の特産種であり、1961年に神山町で発見されて以降どこからも採取されていない。

分布の概要

1961年に神山町千畳敷で採取された1♀aをもとに記載されて以降、県下はむしろ全国からの記録がない。

県内の生息状況

1961年に神山町千畳敷で採取記録がある。

これまでに1♀aが発見されただけの種であり、発見場所においても、環境の変化により絶滅が危惧される。

タツホラヒメグモ

Nesticus longiscapus draco Yaginuma,1978

クモ目ホラヒメグモ科

徳島県カテゴリ

絶滅危 Ⅰ類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

本県特産種である。阿南市竜の窟で発見されたが、すでに竜の窟は消滅している。

分布の概要

洞窟内の凹みや岩の隙間に不規則な網を張って獲物を待つ。洞窟によってみ触肢の小胚葉が特異な形態を示し、本県のナガエホラヒメグモ *Nesticus longiscapus* は八木沼 (1978) により 3 亜種が報告されている。

県内の生息状況

阿南市竜の窟及び上那賀町日店洞で生息が確認されている。
阿南市竜の窟の消滅により、絶滅が危惧されている。

参考文献

八木沼健夫, 1978. 四国の洞窟産ホラヒメグモ類. 追大文紀. 12: 151 - 160, pl.1.

ドウシグモ

Doosia japonica (Bös. et Str.,1906)

クモ目ホウシグモ科

徳島県カテゴリ

絶滅危 Ⅰ類

環境カテゴリ

報不足

選定理由

全国的にも絶滅が危惧されている種であり、本県では、1974 年の池田町における採取以来確認されていない。

分布の概要

本州・四国・九州・南西諸島に分布。体長 3 ~ 4mm の小さなクモで、樹皮上で生活する。暗褐色の腹部の左右に 2 対と後方に縦に並ぶ 2 個の白斑がある。両側から腹面にかけても 2 個の長い白斑がある。

県内の生息状況

1974 年に池田町で採取されている。日本蜘蛛学会では全国調査によって、継続的あるいは極度に減少している種として絶滅危惧 I A 類の候補種としている。本県の記録は 1974 年の池田町の採取だけである。

キシノウエトタテグモ

Latouchia typica (Kishida,1913)

クモ目トタテグモ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環境カテゴリ

絶滅危

選定理由

四国では徳島城公園のみで確認されているだけで、全国的にも絶滅が危惧されている。

分布の概要

本州・九州に分布。比較的明るい場所の地中に住居を作り、入り口に開閉できる扉を付けて中に潜んでいる。

県内の生息状況

家の土台石のきわや神社や寺院の境内の踏み石のきわで見受けられるとされているが、現在のところ、徳島城公園で城の石垣の石の間に住居を作っているのが確認されているだけである。
建造物の変化等によって生息地が失われる危険性が高い。

キノボリトタテグモ

Ummidia fragaria Dönitz,1887

クモ目トタテグモ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環境カテゴリ

絶滅危

選定理由

松などの針葉樹の樹皮上に袋状の住居を作って住む。本県でも、生息地が局地的で、しかも確認個体数が少なく、環境の変化によってますます絶滅が危惧される。

分布の概要

本州・四国・九州・南西諸島に分布しているが、近年各地とも減少の傾向にあるといわれる種である。松・杉などの針葉樹の樹幹の樹皮上に営巣しているのを見かけるが、住居と環境がまぎらわしく発見しにくい。

県内の生息状況

1973 年山川町高越山、1976 年牟岐町大島、1979 年池田町雲辺寺で採取記録がある。
松などの針葉樹の減少や植生の変化等によってますます絶滅が危惧される。

ワスレナグモ

Calommata signatum Karsch,1879

クモ目ジグモ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

県庁カテゴリ

絶滅危

選定理由

本県での生息が局地的であり、しかも個体数も少ない。

分布の概要

本州・四国・九州に分布。比較的乾燥した明るい地面に営巣する。住居は管状で地中部のみ。ジグモのように地上に出ず、入り口は穴があいているだけである。

県内の生息状況

1983年市場町切幡、1985年石井町高川原で採取記録がある。
生息環境の変化によって、生息場所の消滅が危惧される。

バンドウマシラグモ

Leptoneta bandoi Nishikawa,1986

クモ目マシラグモ科

徳島県カテゴリ

報不足

県庁カテゴリ

該当なし

選定理由

本県特産種であり、個体数も少ない。

分布の概要

阿波町芋場用水で発見された無眼のマシラグモ。無眼のマシラグモは日本で2種類目。歩脚や触肢が長く、体は灰白色等洞窟性のクモの特徴を備えている。
人工の洞窟内の石垣の隙間に営巣しているが、個体数はきわめて少ない。

県内の生息状況

1986年に阿波町芋場用水で採取記録がある。
この場所でしか確認されておらず、個体数もきわめて少ない。現状では生息場所の荒廃が心配され、絶滅が危惧される。

ハンゲツオスナキグモ

Steatoda cavernicola (Bös. et Str.,1906)

クモ目ヒメグモ科

徳島県カテゴリ

報不足

県庁カテゴリ

該当なし

選定理由

全国的に生息しているが、本県での個体数が減少してきていると考えられる。

分布の概要

崖のくぼみ、石と石の隙間等に不規則な網を張って、その奥の管状の住居に潜む。北海道から九州まで広範囲に生息しているが、本県ではまれに採取される希少種であり、近年減少している。

県内の生息状況

1972年脇町大滝山、1973年山川町高越山、1995年徳島市沖ノ州海岸、1999年神山町中津で採取記録がある。
生息場所の減少や環境の変化によりますます減少が予測される。

ツクネグモ

Phoroncidia pilula (Karsch,1879)

クモ目ヒメグモ科

徳島県カテゴリ

報不足

県庁カテゴリ

該当なし

選定理由

個体数が減少してきていると考えられる。

分布の概要

本州・四国・九州に分布。体長が2～3mmの小さなクモ。

県内の生息状況

1974年一宇村奥大野、1976年木頭村湯桶丸、1986年海部町愛宕山で採取記録がある。
本県における過去の記録からも、稀に採集されるだけの希少な種である。

アワホラヒメグモ

Nesticus longiscapus awa Yaginuma, 1978

クモ目ホラヒメグモ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

本県特産の種であり、個体数も減少してきていると考えられる。

分布の概要

洞窟内の凹みや岩の隙間に不規則な網を張って獲物を待つ。洞窟によってみ触肢の小胚葉が特異な形態を示し、本県のナガエホラヒメグモ *Nesticus longiscapus* は八木沼 (1978) により 3 亜種が報告されている。

県内の生息状況

木沢村折字第 1 洞、第 2 洞で生息が確認されている。
生息が局地的で、個体数も少ない。

参 考 文 献

八木沼健夫, 1978. 四国の洞窟産ホラヒメグモ類. 追大文紀 .12 : 151 - 160, pl.1.

キウチホラヒメグモ

Nesticus longiscapus kiuchii Yaginuma, 1978

クモ目ホラヒメグモ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

本県特産の種であり、個体数も減少してきていると考えられる。

分布の概要

洞窟内の凹みや岩の隙間に不規則な網を張って獲物を待つ。洞窟によってみ触肢の小胚葉が特異な形態を示し、本県のナガエホラヒメグモ *Nesticus longiscapus* は八木沼 (1978) により 3 亜種が報告されている。

県内の生息状況

木沢村桃源第 1 洞、第 2 洞で生息が確認されている。
生息が局地的で、個体数も少ない。

参 考 文 献

八木沼健夫, 1978. 四国の洞窟産ホラヒメグモ類. 追大文紀 .12 : 151 - 160, pl.1.

ムギホラヒメグモ

Nesticus sonei Yaginuma, 1981

クモ目ホラヒメグモ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

本県特産の種であり、個体数も減少してきていると考えられる。

分布の概要

洞窟内の洞壁の凹みや石の隙間などに不規則な網を張って潜む。

県内の生息状況

1981 年に牟岐町壁岩穴で採取記録がある。
牟岐町壁岩穴のみで発見されているだけで、個体数も少ない。

ニシキオニグモ

Araneus variegatus Yaginuma, 1960

クモ目コガネグモ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

20 年ほど前に美郷村・池田町で採取されて以来確認されておらず、本県での生息が危ぶまれる。

分布の概要

北海道・本州・九州に分布するとされていたが、本県的美郷村・池田町でも確認された。神社や寺院の境内の建物や灯籠、樹間に垂直の円網を張る。美郷村では人家ののきに、池田町では雲辺寺の展望台ののきに (いずれもコンクリートの建物) 円網を張っていた。

県内の生息状況

1978 年美郷村平、1979 年池田町雲辺寺で採取記録があるが、その後記録されておらず、生息が危ぶまれる。

ビジョオニグモ

Araneus mitificus (Simon,1886)

クモ目コガネグモ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

本県では、1972年に山川町で採取記録が残っているだけで、その後確認できていない希少種である。

分布の概要

美女オニグモの名にふさわしいクモで、キレ網を張り、中心から引かれた呼糸の端の葉をまるめて住居とする。山地の広葉樹間に多く、本州・四国・九州に分布するといわれるが、本県では♀1頭が記録されているだけである。

県内の生息状況

1972年山川町で採取記録があるが、その後の確認情報が皆無である。

ハラビロミドリオニグモ

Araneus viridiventris Yaginuma,1969

クモ目コガネグモ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

本県の生息地域が局地的で、個体数も少ない。

分布の概要

本州・四国・九州に分布。体長♀5～6mm、♂3～4mmで腹部が黄緑色の美しいクモである。

県内の生息状況

1996年日和佐町天狗谷、2000年相生町竹ヶ谷で採取記録がある。
本県では、日和佐町、相生町から数個体が確認されているだけの珍しいクモである。

サカグチトリノフンダマシ

Paraplectana sakaguchii Uyemura,1938

クモ目コガネグモ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

全国的にも希少であり、本県でも、採取例・採取個体とも少ない。

分布の概要

本州・四国・九州・対馬・南西諸島に分布。♀の体長7～8mm、腹部の幅が8.5mmほどで、黄色地に白斑が並ぶ美しい腹部をしたクモである。

県内の生息状況

1976年牟岐町西又、1985年石井町童学寺トンネル口、1989年土成町、1996年日和佐町久望で採取記録がある。
本県では広範囲で確認されてはいるが、局地的で個体数もきわめて少ない。

ムツトゲイセキグモ

Ordgarius sexspinosus (Thorell,1894)

クモ目コガネグモ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

本県では、市場町の梅林で1♀aが確認されているだけである。全国的にも採取例は少ない。

分布の概要

本州・四国・九州・南西諸島に分布する。体長は約10mm。木の枝に簡単な糸を引き、これにかかりながら粘球を糸で吊り下げ待機する。ガなどが近づくとこれを振り回す。外国で知られるナグナワグモやウオツリグモと似た習性を持つクモである。

県内の生息状況

1995年市場町北原（梅林）で採取記録がある。
本県では市場町の一地点で確認されているだけのきわめて珍しい種である。

キジロオヒキグモ

Arachnura logio Yaginuma,1956

クモ目コガネグモ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

♀は体長 25 ~ 28mm と生息していればすぐに目につくほどの大きなクモであるが、現在まで神山町で体長 2mm ほどの♂の成体が 1 頭確認されただけである。

分布の概要

♀の腹部の前方は二分して背甲後部をおおい、後端は長くのびて尾状で、先端に先の丸い突起のある、きわめて特異な形状をしている。

県内の生息状況

1999 年神山町本根川で採取記録がある。

♀は生息していればすぐに目につくほどの大きいクモであるが、現在神山町で 1 ♂ a が確認されただけのきわめて珍しい種である。

スズミグモ

Cyrtophora moluccensis (Doleschall,1857)

クモ目コガネグモ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

今までに県内の数力所から記録されているが、近年ではほとんど見かけなくなった種である。

分布の概要

本州・四国・九州・南西諸島に分布。日当たりのよい樹間に直径 30 ~ 80mm のドーム型の網を作る。腹部の斑紋は個体変異が多いが、褐・緑・黒・赤などの美しい斑紋がある。体長♀ 14mm ♂ 4mm。

県内の生息状況

1974 年山川町高越山、1974 年市場町北原、1989 年土成町・2000 年相生町日浦で採取記録があるが、近年急速に減少の傾向がうかがえる。

シマササグモ

Oxyopes macilentus L. Koch,1878

クモ目ササグモ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

本県では海部町で 1 ♂ a が採取されて以降確認されておらず、きわめて珍しい種である。

分布の概要

本州南部・四国南部・九州南部・南西諸島に分布。♂♀ともに体長 10mm ほどのクモで、網を張らずに草間を徘徊する。

県内の生息状況

1986 年海部町吉田で採取記録がある。

バンドウフクログモ

Clubiona bandoi Hayashi,1995

クモ目フクログモ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

1987 年に海部町小島で採取された 1 ♂ a をもとに記載されたクモで、その後本県からは記録されていない。

分布の概要

本県の海部町小島の他、高知県・愛媛県からも記録されている。

県内の生息状況

1987 年海部町小島で採取記録がある。

ツユグモ

Micrommata virescens (Clerck,1758)

クモ目アシダカグモ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

本県では、1973年に池田町で1♀aが確認されているだけである。

分布の概要

北海道・本州・四国・九州に分布。♀は体長12mmほどの黄緑色、♂は体長8mmほどで黄緑色の腹背中央に幅の広い黄条があり、その上に細い赤条が3本走っている。

県内の生息状況

1973年池田町で採取記録があるが、その後確認されていない。

フノジグモ

Synaema globosum (Fabricius,1775)

クモ目カニグモ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

本県では1973年に山川町で記録されて以降、確認されていない。

分布の概要

北海道・本州・四国・九州に分布。体長♀7mm♂4~5mmで、腹部は黄色または朱色の地に大きい禾状の黒斑がある。花上を徘徊し、餌となる虫などを待ち伏せる。

県内の生息状況

1973年山川町で採取記録があるが、その後記録されていない珍しい種である。

カトウツケオグモ

Phrynarachne kato Chikuni,1955

クモ目カニグモ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

本県では1978年に市場町城王山で1♀yが記録されて以降、どこからも確認されていないきわめて希少な種である。

分布の概要

本州・九州に分布するといわれるが、本県では1978年に1♀yが市場町で記録されている。体長♀7~9mmで樹上生活をする。背甲に小さい多数の突起があり、腹背にある大きい多数の突起の先端には、1本ずつの毛がある。

県内の生息状況

1978年に市場町城王山で採取記録がある。
全国的に減少している種で、日本蜘蛛学会においても、1999年以降、RDB作成のための全国調査を実施している。本県でも1978年以降どこからも確認できていない。

ゼンジョウマシラグモ

Leptoneta zenjoensis Komatsu,1965

クモ目マシラグモ科

徳島県カテゴリ

留意

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

本県特産種である。

分布の概要

体長3mm程の6眼の微小なクモで、歩脚は長く、洞窟内の岩などの隙間にシート状の網を張って獲物を待つ。

県内の生息状況

上勝町禅定窟で発見され、徳島市・川島町・穴吹町・貞光町・神山町・木頭村の洞窟的環境の場所に生息している。
本県特産種であるが、県内でかなり広範囲に生息しており、個体数もかなり多い。

アワマメザトウムシ

Acropsopilio boopis (Crosby, 1904)

ザトウムシ目マメザトウムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

報不足

選 定 理 由

徳島県剣山が日本で唯一の既知生息地。

分布の概要

リター性の小型のザトウムシ。北米東部と日本に隔離分布する。単為生殖種と考えられ、これまで雌のみしか得られていない。日本では徳島県剣山の不動窟付近オオシラビソ林(標高 1800m)から 1975 年に 1 個体が採集されて以来、どこからも記録がない。採集者の富島啓次氏(名西郡石井町在住)はその後毎年のように当地で採集を試みているが、その後、見つからない(富島氏私信、1999 年 2 月 13 日)。鶴崎も 1997 年夏、同所にてかなり徹底的な採集を試みたが発見できなかった。生息環境や生態の似る近縁の 2 種 *Caddo agilis* マメザトウムシと *C. pepperella* ヒメマメザトウムシは日本各地のかなり多数の地点から採集されているので、本種は分布域が実際はかなり限られている可能性が高い。

県内の生息状況

採集記録：徳島県剣山不動窟付近オオシラビソ林 標高 1800m、1 ♀、15-VIII-1975 富島啓次氏採集(Suzuki, 1976; 鈴木ら, 1977)。上述のように、本種の生息の現状は不明である。唯一の記録地は国定公園として保全されている剣山山頂に近い場所であり、生息地の人為的影響による悪化はさしあたってなさそうである。

参 考 文 献

Suzuki, S. 1976. The harvestmen of family Caddidae in Japan (Opiliones, Palpatores, Caddoidea). J. Sci. Hiroshima Univ. (B-1), 26 : 261-273.
鈴木正将・富島啓次・矢野静子・鶴崎展巨 1977. 遺跡的ザトウムシにおける隔離分布. Acta Arachnologica, 27: 121-138.

イヤニセタテツメザトウムシ

Metanippononychus iyanus Suzuki, 1975

ザトウムシ目ニセタテツメザトウムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

徳島県固有種。現状不明であるが生息地はかなり局地的と思われる。

分布の概要

ニセタテツメザトウムシ科は日本と北米西部に分布し、日本では主にブナ帯以上の山地森林のリター中に出現する体長 1-2mm 内外の小型のザトウムシである。体は黄橙色でシフターやツルグレン装置を用いた採集では比較的目立つ。徳島県には 3 種(亜種を含めると 4 型。ただし、分布状況から、3 種間は互いに同所的生息が可能な goodspecies とみられる)が知られ、うち本種イヤニセタテツメザトウムシとアワニセタテツメザトウムシ(トミシマニセタテツメザトウムシの 1 亜種)の 2 つは徳島県に固有である。この仲間はブナ林の出現する標高のある山地(徳島県ではおおむね標高 1000m 以上)では、スギの人口林などでも比較的ふつうに出現するが、徳島県では生息が概して希薄のようで(急峻でリターがたまりにくいことや過去の林業の形態が影響しているのかもしれない)、これまでにこの仲間の生息が確認された地点は、採集努力に比して著しく少ない。その中でも本種はとりわけ生息地が限定されているようで、1975 年の本種の本種原記載以後、生息が確認できていない(ただし、現在でも生息していることはまず確実)。

本科のザトウムシの成体は周年見られるが幼体の出現は夏期に限られる。

県内の生息状況

徳島県固有。三好郡西祖谷山村小祖谷(馬岡神社：模式産地)と東祖谷山村霧谷川付近で記録されている(Suzuki, 1975)のみ。

採集記録は、模式産地の西祖谷山村小祖谷が 1971 年、東祖谷山村霧谷川付近が 1960 年のものである。その後、本種はどこからも得られていない。生息地は相当に限定されている可能性が高い。模式産地とその付近では 2000 年 4 月に本種の生息場所であるスギ林のリターやカンスゲ類の根元などをかなり時間をかけて調査したが、残念ながら確認できなかった。模式産地の周囲はスギの人工林であり、一斉の伐採を受けると脅威になりうる。

参 考 文 献

Suzuki, S. 1975. The harvestmen of family Triaenonychidae in Japan and Korea (Travunoidea, Opiliones, Arachnida). J. Sci. Hiroshima Univ. (B-1), 26 : 65-101

マキノブラシザトウムシ

Sabacon makinoi Suzuki, 1949

ザトウムシ目ブラシザトウムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の生息地が徳島県剣山に限定される。

分布の概要

北海道、本州（広島県道後山および北陸地方以北）、および徳島県剣山に生息するブラシザトウムシ属としては中型（体長 2-3mm）のザトウムシ。森林リター中に生息する。徳島県剣山は本種の南限生息地でかつ四国で唯一の生息地（Suzuki and Tsurusaki, 1983）。

本州以南の集団は、亜種スギモトブラシザトウムシ *Sabacon makinoi sugimotoi* Suzuki and Tsurusaki, 1983 に属する。

県内の生息状況

剣山の 1700m 以上の森林、ササ原から知られるのみ。四国では唯一の生息地。国立公園指定地域内であり、人為的な脅威はいまのところ考えにくい。

参 考 文 献

Suzuki, S. & N. Tsurusaki 1983. Opilionid fauna of Hokkaido and its adjacent areas. J. Fac. Sci. Hokkaido Univ., (VI, Zool.), 23 : 195-243

カブトザトウムシ

Dendrolasma parvulum (Suzuki, 1963)

ザトウムシ目イトクチザトウムシ科

徳島県カテゴリ

留意

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

愛媛県と徳島県のブナ林の固有種。生息地はかなり局地的と思われる。

分布の概要

四国のブナ林のリター中の固有種。属レベルでは四国と北米西部に固有。体長 2-2.5mm 程度と小型であるが、頭胸部の前縁にかぶと状の目立つ突起があり、同定は容易である。ザトウムシは基本的に捕食性であり適度の湿度さえあれば、一般に林地の樹種に生息が影響されることは少ないが、本種はブナ林への結びつきが強いようで、スギ林では同標高であってもこれまでのところ採集されたことがない。

徳島県では数カ所の山地のブナ林から得られているが、採集努力に比して、生息確認地は少ない。

県内の生息状況

国見山、山川町高越山（Suzuki, 1974）、東祖谷山村落合峠、東祖谷山村小松山登山口（京柱峠のそば）のブナ林のリター中。

高越山の記録は 1972 年。当地ではその後も採集を試みているが得られておらず。生息密度は高いとは言いがたい。本種の生息地は愛媛県でもブナ林に限定されており、ブナ林が保護されることが、本種の生息の前提となる。

参 考 文 献

Suzuki, S. 1974. Redescription of *Dendrolasma parvula* (Suzuki) from Japan (Arachnida, Opiliones, Dyspnoi). J. Sci. Hiroshima Univ. (B-1) , 25: 121-128.

ヒメタテヅメザトウムシ

Yuria pulcra Suzuki, 1964

ザトウムシ目タテヅメザトウムシ科

徳島県カテゴリ

留意

県庁カテゴリ

該当なし

選定理由

県内の生息地が限定される。

分布の概要

本種は山地森林のリター中に生息する小型のザトウムシ（よく似たニセタテヅメザトウムシ科の種よりもさらに小型で体長 1-1.3mm）である。京都府以西の西日本に生息するが、分布は非常に局地的である。

ヒメタテヅメザトウムシ *Yuria pulcra* Suzuki, 1964 は雄の触肢付節の形態の違いでヒメタテヅメザトウムシ（狭義）*Yuria pulcra pulcra* Suzuki, 1964（福岡県英彦山と山口県秋吉台に分布）とアワタテヅメザトウムシ *Yuria pulcra briggsi* Suzuki, 1975（九州阿蘇山、愛媛県鬼ヶ城山地、徳島県、兵庫県、京都府に分布）の 2 亜種に分けられている。

四国では、現在のところ、徳島県内の下記の 2 地点のほか、愛媛県南部の鬼ヶ城山系（鬼ヶ城山、八面山）から知られるのみ。

県内の生息状況

海部郡穴喰町鈴峯（亜種アワタテヅメザトウムシ *Yuria pulcra briggsi* Suzuki, 1975 の模式産地）と名西郡神山町芝小屋山から記録されるのみ（いずれも 1970 年代の採集記録）。その後、これら 2 産地以外からの記録はない。既知産地の現状は不明である。

参考文献

Suzuki, S. 1975. The harvestmen of family Travuniidae from Japan (Travunoidea, Opiliones, Arachnida). J. Sci. Hiroshima Univ. (B-1), 26 : 53-63.

トミシマニセタテヅメザトウムシ

M. tomishimai Suzuki, 1975

ザトウムシ目ニセタテヅメザトウムシ科

徳島県カテゴリ

留意

県庁カテゴリ

該当なし

選定理由

徳島県と愛媛県（面河山の 1 カ所）で記録されるのみ）の固有種。徳島県内では標高 700m 以上の山域に比較的広く分布するが、個体数はどこでも少ない。雄の生殖器の構造は県内で地理的に分化し、2 亜種が区別される（うち 1 亜種のアワニセタテヅメザトウムシは徳島県固有）。

分布の概要

徳島県に生息するニセタテヅメザトウムシ科の 3 種のなかでは、もっとも記録の多い種である。本種は四国固有種で、しかも、その記録は、愛媛県での 1 カ所（面河山 1300m 地点）をのぞくと徳島県に限られている。雄の生殖器の形態やサイズが徳島県内で地理的に分化し、次の 2 亜種が区別されている：*Metanippononychus tomishimai tomishimai* Suzuki, 1975 トミシマニセタテヅメザトウムシ（狭義）、*Metanippononychus tomishimai awanus* Suzuki, 1975 アワニセタテヅメザトウムシ。

スギ林やブナ林の林床リター中に生息。カンスゲの根元などに比較的多い。体長は雄が 1.6mm 内外、雌は 2mm 内外。

県内の生息状況

2 亜種の生息地は次のとおり（Suzuki, 1975 および鶴崎未発表資料による）：

トミシマニセタテヅメザトウムシ（狭義）：三好郡西祖谷村坂瀬、腕山；三好郡東祖谷村落合峠；美馬郡一宇村桑原；麻植郡山川町高越山（模式産地）。

アワニセタテヅメザトウムシ：剣山行場；美馬郡木屋平村川上；勝浦郡上勝町高丸山、殿川内、信義峠（模式産地）。

両者の分布境界は、剣山見ノ越と山川町高越山の南側付近を結ぶラインにあると推定される。この地域で、両者がどのように移行するか、興味もたれる。

比較的高標高の山地の林地に生息する種であり、生息地の森林が皆伐を受けないかぎりには比較的問題がないと考えられる。

参考文献

Suzuki, S. 1975. The harvestmen of family Triaenonychidae in Japan and Korea (Travunoidea, Opiliones, Arachnida). J. Sci. Hiroshima Univ. (B-1), 26 : 65-101.

ヒトハリザトウムシ

Metagagrella tenuipes (L. Koch, 1878)

ザトウムシ目マザトウムシ科

徳島県カテゴリ

留意

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

県内での生息地が限定される。ザトウムシとしては珍しく海浜性の種で、人為的影響を受けやすいと考えられる。

分布の概要

体長 7mm 内外の中型・長脚の種。北海道から九州までの日本各地に分布 (Tsurusaki, 1993)。ザトウムシとしては珍しく海浜性の種で、海岸の磯に面した海蝕崖のくぼみやオニヤブソテツなどの海浜性のシダの根元などに群がって生息していることが多い。夜間にフナムシや砂浜に打ち上げられた小動物などを食しているとみられる。ただし、関東地方以北では内陸部にも出現するところがあり、とくに東北・北海道では海浜性というよりは内陸の公園などで目につくことが多い。この場合にも出現は開けた林縁に限られる。

卵越冬で春に出現した幼体は 7 月頃に成体となる。成体は交尾・産卵のちほとんどは年内に死亡するが、西南日本では翌年の初め頃まで生き残っている個体を見ることもある。

集合性が強く、生息地では非常に多数の個体が岩のくぼみなどに群がっていることが多い。全国的には普通種に属すると言って良いが、本種の生息する自然海岸はどこでもかなり減少しており、とりわけ瀬戸内海沿岸では島嶼部を別にすると、本種のみられる場所はかなり限定されてきている。

県内の生息状況

徳島県からは小松島市 (Suzuki, 1973; 詳しい産地やデータ不明) の記録があるのみ。海岸部は未調査のため、現状不明。成体や幼体のすみかとなる適度な窪地や海浜植生をとまなう海蝕崖が本種の生息には必要である。しかしながら、そのような場所でも必ずしも本種は見つからずとりわけ人の出入りの多い遊歩道の設置されたような開けた海岸では見られないことが多い。徳島県内の生息状況は不明であるが、今後、動向には注意する必要があると思われる。

参考文献

Suzuki, S. 1973. Opiliones from the South-west Islands, Japan. J. Sci. Hiroshima Univ. (B-1), 24 : 205-279.

Tsurusaki, N. 1993. Geographic variation of the number of B-chromosomes in *Metagagrella tenuipes* (Opiliones, Phalangida, Gagrellinae). Memoirs of the Queensland Museum, 33: 659-665.

リュウオビヤスデ

Epanerchodus acuticlivus Murakami, 1970

オビヤスデ目オビヤスデ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

報不足

選 定 理 由

阿南市の洞窟より生息が確認されているだけである。模式産地であった龍の窟（洞窟）は工事により消滅した。

分布の概要

洞窟・地下性のヤスデ類で、阿南市の洞窟から知られるだけである。

県内の生息状況

模式産地であった龍の窟（洞窟）は工事により消滅している。天竜寺山近くの洞窟にも生息しているようである。

洞窟には、道路工事等によって発見されたものが少なくない。これは掘ってみなければ発見できない洞窟が少なからず存在するということである。阿南市および周辺地域の未知の洞窟や地下の間隙に生息していることは十分にありうることであるが、状況を把握することは困難である。

工事により、地下の間隙や洞窟等の生息地が破壊されるおそれがある。

参 考 文 献

Murakami, Y. 1970. More new species of *Epanerchodus* (Diplopoda, Polydesmidae) found in limestone caves of eastern Shikoku, Japan. *Annotationes Zoologicae Japonenses*, 43: 151-157.

ホシオビヤスデ

Epanerchodus aster Murakami, 1970

オビヤスデ目オビヤスデ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

報不足

選 定 理 由

阿南市の洞窟より生息が確認されているだけである。模式産地であった龍の窟（洞窟）は工事により消滅している。

分布の概要

洞窟・地下間隙性のヤスデ類で、体色は退色し白色化している。阿南市および上那賀町の洞窟から知られるだけである。

県内の生息状況

模式産地であった龍の窟（洞窟）は工事により消滅している。

洞窟には、道路工事等によって発見されたものが少なくない。これは掘ってみなければ発見できない洞窟が少なからず存在するということである。阿南市、上那賀町および周辺地域の未知の洞窟や地下の間隙に生息していることは十分にありうることであるが、状況を把握することは困難である。

工事により、地下の間隙や洞窟等の生息地が破壊されるおそれがある。

参 考 文 献

Murakami, Y. 1970. More new species of *Epanerchodus* (Diplopoda, Polydesmidae) found in limestone caves of eastern Shikoku, Japan. *Annotationes Zoologicae Japonenses*, 43: 151-157.